

## 1 単元名 弘道館をつくった「徳川斉昭」

## 2 目標

藩校を作り地域の学問の発展に尽くした先人の働きを調べ、先人の願いや苦心を考えていくことで、地域社会に対する誇りと愛情を育む。

## 3 単元について

## ○ 児童の実態

本学級の児童数は男子17名、女子13名の30名である。事前のアンケートでは、「昔の人で水戸に関係のある人を知っているか。」という問いに、19人の児童が「徳川光圀」と答えており、テレビドラマの黄門様が先人として定着していることがわかる。弘道館と偕楽園をつくった「徳川斉昭」を挙げた児童は4人であった。

クラスの全員が「水戸の郷土かるた」で遊んだ経験をもっていることや、上記のようなアンケート結果から、歴史に興味をもち始めている児童がいるものの、ほとんどの児童においては弘道館や偕楽園、徳川斉昭についての知識が乏しい。また、それらの歴史的価値の重要性について感じていないのが現状である。そのため、水戸の今の町やくらしとの関わりが深い徳川斉昭の働きに目を向けられるようにしたいと考え、本校の4年生は、水戸教学の一環として、毎朝、『弘道館記』や『及問遺範』、『偕楽園記』等の一節を唱和している。

2学期に行った「わたしたちの茨城県」では、特に、大子町に重点を置いて取り組んだ。自分たちで集めた大子町に関するパンフレットやインターネットなどの資料を活かした調べ学習、水戸市との比較、遠足でのこんにやく作りや茶揉み体験等を通して、一人一人が大子町のまちづくりについて、根拠に裏付けられた考えをもつことができた。話し合い活動では、友だちと意見を出し合うことにより、自然を活かした観光に力を入れたまちづくりについて考えることができた。大子町の人々のまちづくりに対する思いや願いについて話し合うことは、自分の考えを深めたり、視野を広げたりすることにつながった。

## ○ 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(5)のウにあたる。地域の発展に尽くした先人の働きや苦心を考えることができるようにすることをねらいとしている。

水戸の第九代藩主徳川斉昭の足跡は、水戸市に色濃く残っている。建造物や書物などは、藩内抗争や水戸空襲により焼失してしまっているものも多いが、斉昭の教育に対する理念などの精神面は、「知性にとみ、心身ともに健全な風格をそなえた人間の形成につとめる」という水戸市の教育目標にも受け継がれ、現在の水戸の人々の考えの中に息づいている。

これらのことから、4年生が社会科で一番初めに会う水戸の先人として取り上げたのが、徳川斉昭である。弘道館と偕楽園という、一見無関係と思われる施設を一対として建設し、知徳体の調和のとれた豊かな人を育てようとしたこと、多くの反対により中断を余儀なくされ、正式な開館まで15年の歳月を要しながらも諦めなかったことなど、斉昭の多くの工夫や苦心があった。弘道館は完成した。斉昭の弘道館建設に当たっての工夫や苦心、そして弘道館での活動が今日のわたしたちの生活の礎となっていることを理解することは、これからの水戸を担っていく児童にとって大切である。徳川斉昭を教材化し、弘道館について調べることで、藩校の建設によって水戸の教育を発展させた先人の働きについて考えていきたい。

そして、観梅の施設と考えていた偕楽園には弘道館と結びついた斉昭の教育に対する考えがあったことに気付いていく中で、児童の地域社会に対する誇りと愛情が高まると考える。

## ○ 指導観

本単元は、地域にある偕楽園を導入で扱い、偕楽園は誰がつくったか、何のための施設なのか、と問いかけることで児童に興味をもたせていく。偕楽園と一対である弘道館を身近なものとしてとらえることができれば、関心をもって意欲的に学習に取り組むことができると考える。

次に、藩校を作った徳川斉昭の考えに迫るために、敷地図やパンフレットを読む、弘道館を見学する、歴史の専門家に取材するなど、児童自らが具体的に調べられるものを準備しておく。児童は「読む」、「見る」、「聞く」といった様々なかかわりを主体的に重ね、見えてきたことや分かったことを自分なりの言葉で表現することができるように考える。4年生の児童がそのまま活用できる郷土資料は数少ないが、それらを整理し集めておくことで、児童の主体的な活動を促すことができるであろう。

その後、分かったことをもとになぜ弘道館を作ったのかについて全員で話し合う場を設ける。異なった視点から調べた者同士が話し合うことで、斉昭の工夫や苦心、考えに着目させたい。これらを通して、教育を発展させようとした斉昭の願いに迫り、地域社会に対する誇りと愛着を育てていきたい。そしてそのことは、今求められている伝統や文化を尊重する教育として重要であると考えている。

4 「みえる」「わかる」子どもの姿

みえる  
わかる

「徳川齊昭が、世の中に役立つ人を育てたいと願って弘道館をつくったから、今のような学問を大切にする考えが水戸に広まったのだな。私たちも齊昭のいた水戸で学んでいることに、もっと誇りをもとう。」

考える

徳川齊昭は、どんな人なのだろう。 ①

齊昭は、どんな思いや願いから弘道館をつくったのだろう。 ②～⑧

齊昭の功績をみんなに知らせよう。 ⑨

見える・分かる

……弘道館も偕楽園も齊昭が作らせたものであること  
黄門様より後の殿様であること  
水戸の殿様であること

……弘道館は、十五歳以上の武士が学び、卒業がなかったこと  
弘道館に、たくさんの梅の木があること  
弘道館は、敷地面積が日本最大の学校であること  
弘道館建設には、二万両の資金がかかったこと  
正式な開館までに十六年かかったこと

……弘道館は、藤田東湖などの学者や先生がいたこと  
弘道館では、学問と武芸の両方を学んだこと  
「文武不岐」  
弘道館は、現在の大学のような学校だった  
医学館では、無料で種痘を施したこと  
医学館で、医学の研究をしたこと

……弘道館は、勉強するところ、偕楽園はゆっくり休むところ  
「一馳一息」「一張一弛」  
偕楽園は弘道館と一对の施設であること  
「水戸八景」は体を鍛えるために一日で巡るものであること  
偕楽園に、「水戸八景」の一つ、「儂湖の暮雪」があること  
偕楽園にたくさんの梅の木があること（三千本）  
偕楽園は、領民と偕に楽しむ施設であったこと

・学問を發展させて、世の中に役立つ人を育てるため

学習材

- 水戸徳川家の家系図
- 齊昭の年表
- 齊昭の肖像画
- 弘道館と偕楽園の写真（梅の咲く季節）

- 「種痘記」
- 「弘道館庭中梅花に題す」
- 弘道館の見学
- 弘道館のパンフレット
- 弘道館の敷地図
- 住宅地図（常磐小・弘道館）
- 弘道館の年表
- GTの話（弘道館について）
- 水戸に息づく徳川齊昭
- 『輝く茨城の先人たち』
- 弘道館の教員のリスト
- 『瘍科秘録』
- 『内科秘録』
- 種痘券
- 歴史館での資料閲覧
- 弘道館の蔵書印の写真
- 「種梅記」

- 先人の言葉
- 『茨城算数物語』
- 偕楽園のパンフレット
- 偕楽園の敷地図
- 偕楽園の見学
- GTの話（偕楽園について）

- 水戸市歌
- 学校の校歌集

5 評価規準

- 弘道館や偕楽園をつくった斉昭の働きについて関心をもち追究している。 (関心・意欲・態度)
- 斉昭がどんな思いや願いから弘道館をつくったのか、その先人の働きや苦心について考えたり、表現したりしている。 (思考・判断・表現)
- 弘道館をつくった斉昭の働きについて資料を読んだり、見学したり、専門家の話を聞いたりして調べ、ノートや紹介文にまとめている。 (技能)
- 斉昭の働きによって、水戸の教育を大切に作る気風が高まったことがわかる。 (知識・理解)

6 単元の指導と評価の計画 (9時間) (①・②は時数, ◇は評価)

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これは、何の写真だろうか。(弘道館 偕楽園)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本有数の藩校として、すごいものなんだ。</li> </ul> </li> <li>○ だれがつくったものだろうか。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">徳川斉昭はどんな人なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 偕楽園と弘道館をつくらせた。</li> <li>・ 水戸の殿様だ。</li> <li>・ 黄門様の100年後、今から150年ぐらい前の人だ。</li> </ul>	◇ 弘道館と偕楽園を斉昭がつくったことを理解している。(知・理)
②	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">斉昭は、どんな思いや願いから弘道館をつくったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな学校だったのかな。(建物, 施設, 敷地, 歴史)</li> </ul>	◇ 弘道館をつくった斉昭について関心をもち、調べようとしている。(関・意・態)
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな勉強をしたのかな。</li> </ul>	
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな人がいたのかな。(生徒, 先生, 有名人)</li> </ul>	
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 偕楽園はどういう役目をしていたのか。</li> </ul>	
⑥	<p>パンフレットで調べる。 敷地図を見てみる。 弘道館に行ってみる。弘道館の周りを歩いてみる。 弘道館の人や歴史館の人に聞いてみる。</p>	◇ 弘道館や偕楽園に関する資料を見付け、調べている。(技)
⑦	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分かったことをまとめて伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とても広いんだよ。日本で一番大きいよ。</li> <li>・ 正式な開館までに15年もかかったんだよ。</li> <li>・ 武士の子どもから大人までが通ったんだ。</li> <li>・ 「文武不岐」という考えがあったんだね。</li> <li>・ 大学みたいな学校なんだよ。</li> <li>・ 偕楽園には「一馳一息」「一張一弛」という考えがあったんだね。</li> <li>・ 「水戸八景」を選定して、心も体も強い人を作ろうとした。</li> </ul>	◇ 調べたことをノートや発表カードにまとめている。(技)
⑧ (本時)	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">斉昭は、どんな思いや願いで弘道館をつくったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よい世の中にするためには、勉強が大切だと考えた。</li> <li>・ 武士だけでなく、みんなと触れ合える場所をつくりたかった。</li> <li>・ 勉強だけだと偏るから偕楽園を作ることでも豊かな人を育てたいと考えた。</li> <li>・ 医学館を作って、病気の人を救おうとした。</li> <li>・ 学問が発展すれば、みんなのためになると考えた。</li> </ul>	◇ 斉昭が弘道館をつくったわけを考えている。(思・判・表)
⑨	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">斉昭の功績を記した碑文を書いてみんなに知らせよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 殿様になった斉昭は学問で水戸をよくしようと考えました。</li> <li>・ 二万両という費用がかかりました。反対があってもくじけずに15年かけて弘道館という学校をつくりました。</li> <li>・ 斉昭のすごいところは、勉強だけでなく、リラックスも大切だと考えたところです。そのために、偕楽園をつくりました。</li> <li>・ 斉昭のお陰で水戸の人は、学問を大切にするようになりました。</li> <li>・ 斉昭の考えは、今でも「先人の言葉」として大切にされています。</li> <li>・ 斉昭の苦労を忘れず、私たちもよく学び、よく遊び、がんばっていきましょう。</li> </ul>	◇ 斉昭の働きによって、水戸に教育を大切に作る気風ができたことを理解している。(知・理)
		◇ 弘道館創設・運営に尽力した斉昭の功績を具体的に示した文章を書いている。(思・判・表)

## 7 本時の指導

### (1) 目標

齊昭が学問や医学などを通して地域の発展を願い、弘道館をつくったことを考えることができる。

### (2) 授業づくりの課題

学習者同士が、建物、施設、歴史、勉強など異なる内容を根拠をもとに話し合えば、新たな気付きが生まれ、藩校を創設した齊昭の願いに迫ることができるであろう。

### (3) 展開

学習活動・内容	児童への働きかけ・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>齊昭は、どんな思いや願いから弘道館をつくったのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習の流れや、児童が作った資料を掲示しておき、話し合いに生かせるようにする。</li> </ul>
<p>2 齊昭が弘道館をつくったわけについて、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>藩の財政が苦しくても、学校をつくって、みんなに勉強させたいと考えた。</li> <li>武道もできるようにして、強い心とたくましい体を鍛えようとした。</li> <li>敷地図を見ると天文学や医学も学んでいたことが分かるので、今の大学のような学校をつくって学問を発展させようとしたのではないか。</li> <li>医学館では種痘をして伝染病を防いだので、みんなを助けたかったのだと思う。</li> <li>偕楽園記には、「一馳一息」「一張一弛」という考えが書いてあるので、勉強も遊びも大事だと考えて、頭だけでなく心も立派な人を育てようとしたのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる内容から考えた意見と自分の考えを比べることで、多面的に考えられるようにする。</li> <li>より具体的に根拠を述べている児童を賞賛することで、話し合いが深まるようにする。</li> <li>文武一致の考えで、弘道館をつくったことに触れる。</li> <li>医学館について発言した児童の考えをもとに医学館をつくったわけを考えるようにし、医学館をつくった齊昭の願いに気付くようにする。</li> <li>偕楽園について発言した児童の考えをもとに、鍛えるだけでなく、学問や武道に打ち込んだ後に、心休める場所として、齊昭が偕楽園をつくったことを全体に広げる。</li> </ul>
<p>3 話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>齊昭は、学問を発展させることでみんなを救おうとしたから弘道館をつくった。それは、医学館で薬や種痘の研究をしてみんなを助けようとしたことから分かる。</li> <li>齊昭は、水戸をよくするためには、立派な武士を育てることが必要だと考えて弘道館を作った。文武不岐という考えや偕楽園をつくって偏らない人を育てようとしたことから分かる。</li> </ul> <p>4 本時の学習をふり返り、次時の活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えが深まった児童を賞賛し、その理由を書くように助言する。</li> <li>最初の考えと友達の見解を聞いて気が付いたことをもとに考えるように助言する。</li> </ul> <p>㊦ 齊昭が弘道館をつくったわけを考え、ノートに表現している。 (思・判・表：話し合い、ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>齊昭の学問を発展させようとする願いを根拠を示して書くことができた児童、友達の見解を聞いて考えが変化した児童を指名して、発表するように促す。</li> <li>次時は、話し合っていてわかったり気が付いたりしたことをもとに、齊昭の功績を知らせる碑文を書くことを予告する。</li> </ul>